

《企画プログラム》

シンポジウム 1

10月21日(金) 11:10~12:30

「これからの在宅支援」

座長：赤平 諭美子（国立病院機構 あきた病院 看護師長）

S1-1 「これからの在宅医療～在宅支援診療所の立場から～」

橋本 和季（旭川神経内科クリニック 院長）

S1-2 「医療ケア児を支援する訪問看護の実際と多職種の連携」

満保 夏美（訪問看護ステーションめぐみ 看護師）

S1-3 「筋強直性ジストロフィー患者の在宅生活に必要としている物は何か」

高橋 久（患者家族）

S1-4 「地域の窓口となり地域生活へ繋げる～自立生活センターのひとつの役割～」

佐藤 祐（自立生活センター ラピタ）

シンポジウム 2

10月21日(金) 13:20~14:40

「コロナ禍における、これからの外出支援・面会・患者の過ごし方」

座長：宮原 由妃（国立病院機構 旭川医療センター 医療安全管理係長）

S2-1 「面会再開に向けて、より良い方法を考える」

松永 正美（国立病院機構 旭川医療センター 感染対策担当師長）

S2-2 「コロナ禍で試みた筋ジス病棟 DX（デジタルトランスフォーメーション）」

妹尾 みどり（特定非営利活動法人 筋強直性ジストロフィー患者会）

S2-3 「移動支援事業について」

野々村 雅人（特定非営利活動法人 ゆい・ゆい）

S2-4 「コロナ禍における、これからの外出支援・面会・患者との過ごし方」

白瀬 幸絵（訪問看護ステーションめぐみ 統括所長）

特別講演

10月21日(金) 14:50~15:50

座長：木村 隆 (国立病院機構 旭川医療センター 院長)

「筋強直性ジストロフィーの疾患修飾薬の時代にむけて」

高橋 正紀 (大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体病態情報科学講座 臨床神経生理学)

シンポジウム 3

10月22日(土) 9:30~11:10

「筋力低下に対する援助・リハビリテーション」

座長：石川 悠加 (国立病院機構 北海道医療センター 神経筋/成育センター長)

S3-1「筋ジストロフィー症の筋力低下に対するリハビリテーション医療」

大田 哲生 (旭川医科大学病院 リハビリテーション科 教授)

S3-2「筋力低下に対する援助・リハビリテーション—支援技術導入への取り組み」

田中 栄一 (国立病院機構 北海道医療センター 作業療法主任)

S3-3「神経筋疾患により筋力が低下した方に対するの移乗方法の工夫」

片山 望 (国立病院機構 仙台西多賀病院 理学療法士)

S3-4「筋強直性ジストロフィー1型患者の構音障害に対する取り組み」

神谷 陽平 (国立病院機構 旭川医療センター 主任言語聴覚士)

S3-5「小児期発症の筋ジストロフィーのリハビリテーション」

石川 悠加 (国立病院機構 北海道医療センター 神経筋/成育センター長)

川井充メモリアルレクチャー

10月22日(土) 11:10~12:10

座長：高田 博仁 (国立病院機構 青森病院 院長)

「筋ジス病棟の夜明け、それから」

小長谷 正明 (国立病院機構鈴鹿病院 名誉院長)

「患者の精神的なサポートと介助者のメンタルサポートについて」

座長：田中 亜由美(国立病院機構 大牟田病院 副看護師長/慢性疾患看護専門看護師)

S4-1「青森病院における患者および職員のメンタルサポートについて ～療養介護病棟における虐待防止対策を中心に～」

佐々木 京太(国立病院機構 青森病院 療養指導室長)

S4-2「利用者が望む在宅生活を継続するために」 訪問看護師としての精神的サポート

塚本 悦子(はらだ病院訪問看護ステーション 所長)

S4-3「互いに無理をせず日常を過ごすことの必要性」

本間 健司(SSB株式会社 代表取締役)

共催：日本新薬株式会社

座長：松村 剛(国立病院機構 大阪刀根山医療センター 特命副院長兼臨床研究部長)

「筋ジストロフィー心筋症の現状と展望」

木村 公一(東京大学 医科学研究所附属病院 検査部/循環器内科 特任講師)